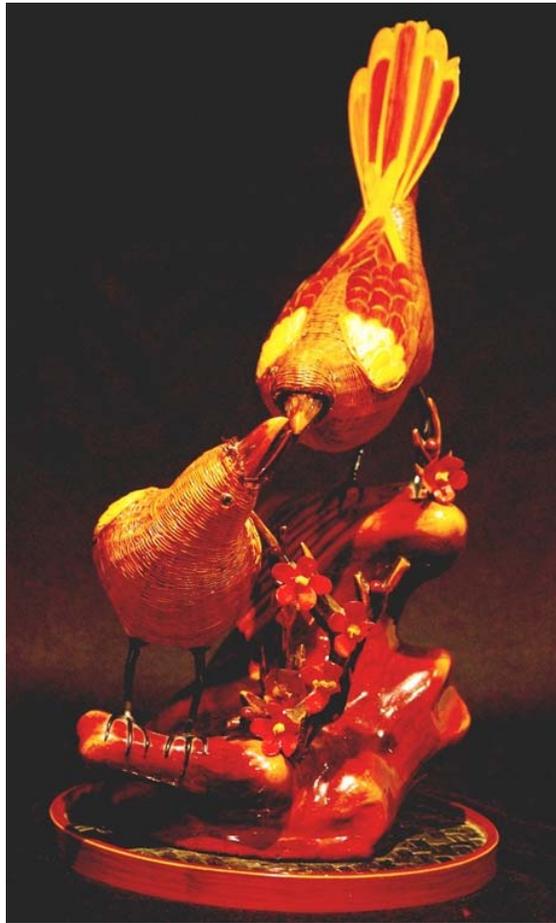


# 会館だより

2011年 8月号 第266号



財団法人日中友好会館

## 「会館だより」 8月号の内容

### 行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・日中友好会館主催展  
「編むかたち、織るころ～  
中国竹草工芸展」

《日中友好後楽会》

- ・8月談話会
- ・後楽会中国旅行

### 事業報告

- ・JENESYS  
平成22年度 日中青少年交流事業  
アンケート

### 活動記録

- ・後楽寮 25 周年記念祝賀会
- ・大使館より後楽寮寮生へ非常食が届く
- ・「王宏喜・潘宝珠-中国画の世界展」  
好評のうちに閉幕
- ・6月談話会
- ・平成23年度日本高校生訪中代表团  
第1陣が訪中  
遼寧省(大連)・黒龍江省(ハルビン)・  
北京で交流
- ・日本青年映像関係者代表团が訪中  
日中映像交流事業開幕行事に参加

### 表紙

『カササギ (竹編み)』

(「編むかたち、織るころ～  
中国竹草工芸展」より)

催事の詳細は、本誌2ページの「行事案内」  
をご覧ください。

### 会館行事と人の動き

## 行事案内

### 日中友好会館美術館

#### ◆日中友好会館主催展

「編むかたち、織るころろ～  
中国竹草工芸展」



蘭亭序(竹編み)

会館主催展として、8月より「編むかたち、織るころろ～中国竹草工芸展」と題した、中国の伝統民間工芸、竹・草工芸の展覧会を開催いたします。

中国において竹の堅牢さは品格、草のしなやかさは情感の象徴とされています。

中国で竹・草編み工芸品が日常的に愛用されるのは、その利便性や価格からだけでなく、中国で尊重される「天人合一」の思想、すなわち「人・天・地・自然の調和」という理念が具体的に体现されたものと考えられているからです。

その歴史は長く、新石器時代（紀元前6000年前～）にはすでに発生していました。その後、数千年の発展を経て、今では高い鑑賞性をもつ伝統民間工芸となっています。

本展では、鑑賞用から実用まで幅広い分野から、立体編み・平面編み・磁器素地編みなどの様々な編み方を駆使した作品約75点を展示いたします。

ご来場、心よりお待ちしております。



くつ(草編み)

会期：8月1日(月)～8月17日(水)

時間：11:00～17:00

休館日：土・日 入場料：無料

主催：(財)日中友好会館

中華人民共和国文化部对外文化聯絡局

後援：中国駐日大使館、(社)日中友好協会

日本中国文化交流協会、(社)日中協会

日本民藝協会

#### 【お問合せ】

(財)日中友好会館 文化事業部

電話：03-3815-5085

e-mail: bunka@jcf.or.jp

### 日中友好後楽会

#### ◆8月談話会

8月は談話会をお休みいたします。9月の談話会は、次号にてご案内申し上げます。毎日とても暑いですので、皆様お身体ご自愛の上、お元気にお過ごし下さい。

#### ◆後楽会中国旅行

お待たせいたしました。11月の後楽会中国旅行(海南島・広州・開平)の正式な申込みを開始させていただきました。詳細は、会員の皆様に別途郵送しております書類をご覧ください。

#### 【問合せ】

後楽会事務局 小林陽子

電話：03-3811-5305

FAX：03-3811-5263

メールアドレス: bunka@jcf.or.jp

# 事業報告

## ◆JENESYS

### 平成22年度 日中青少年交流事業 アンケート

常務理事 武田 勝年  
総合交流部 副部長 荻原 芽

(財)日中友好会館では、2007年安倍晋三総理が提唱され、日本政府が推進している「21世紀東アジア青少年大交流計画」(略称:JENESYS)の一部、中国との青少年交流事業を担当、実施して来ました。平成22年度は、中国から高校生(8組、2,264名)、各界青年(13組、1,685名)、計3,949名の訪日交流招聘事業を成功裏に完了することが出来ました。この事業の実施に当たっては、高校生間の学校交流・ホームステイを手配頂いた各地教育委員会、青年との交流に積極的に参加された多くの団体、企業、メディア、学校等に多大のご指導とご協力を頂きました。心よりお礼申し上げます。

参加者3776名(回答率:95.6%)のアンケート調査結果がまとまりましたので、その一部をご紹介します。



英語や筆談でコミュニケーションをとる日中高校生

#### 1、日本に対する印象が活動参加の前と後でどのように変わったか？

	高校生	青年
良くなった	28～62%	19～46%
やや良くなった	33～45%	44～69%
計	61～97%	70～96%

\*「良くなった」「やや良くなった」の合計で見ると、高校生で61%、青年で70%が各1組あったが、他19組は全て78%以上。印象に「変化なし」との回答が数%～20%前後、「悪くなった」との回答は0%。

(注:アンケートは事業毎に実施したので、数値に幅があります)

#### 2、日本人に対する印象が活動参加の前と後でどのように変わったか？

	高校生	青年
良くなった	29～59%	23～45%
やや良くなった	30～41%	37～65%
計	63～96%	63～92%

\*高校生、青年ではほぼ同様の結果であった。21組中18組で「良くなった」「やや良くなった」の合計は80%以上。直接交流された方々は勿論のこと、街角や訪問先で出会い行き違った日本人からも好印象を得たものと思われる。

(注:アンケートは事業毎に実施したので、数値に幅があります)

### 3、日本人に対する具体的印象

(複数回答)

高校生、青年全ての組で圧倒的多数の参加者が下記5項目を挙げた。

- ① 勤勉
- ② 温和で善良
- ③ 友好的
- ④ 礼節を重んじる
- ⑤ 規律正しい

\* 中国の高校生や青年が自国社会との比較の中で、日本人の特徴として①、②、④、⑤を感じたことは十分頷ける。我々もこれを誇りにしてよいであろう。しかし、一方で複数回答にもかかわらず「信頼できる」との印象を書いた参加者が多くなかった。口数が少なくニコニコしているが、まだ心底からは信用できないと言う感触があるのかも知れない。

### 4、訪日視察活動で何を学んだか？

(複数回答)

- ① 日本の文化や伝統
- ② 日本の環境問題の認識
- ③ 日本人の礼儀正しさ
- ④ 日本人の生活様式

\* 外国人から評価される日本の優位性、「日本の文化・伝統」「礼儀正しさ」を更に磨きあげることの大切さを改めて教えてくれる。

### 5、この活動を友達に勧めたいか？

	高校生	青年
とても勧めたい	81～90%	56～86%
少し勧めたい	12～19%	14～43%
計	99～100%	98～100%

\* 高校生、青年共100%と言ってよい参加者が、訪日活動を通じて日本・日本人への理解を深め、多くの収穫を得た結果がこのアンケートに現れている。



長野県内の浄化管理センターを視察する  
中国メディア関係者

このアンケート結果は我々を大いに力づけるものでありました。昨年9月に発生した尖閣列島における漁船衝突事件に端を発した問題は、日中関係の底流にある難しさ、脆さを印象付けましたが、我々は、若い世代の相互理解を促進する草の根活動を地道に根気よく続けることで、表面的な波風の動きにはびくともしない大衆レベルでの信頼関係構築を目指しております。引き続き関係の皆さまのご指導とご支援をお願い申し上げます。

## 活動記録

### ◆後楽寮 25 周年記念祝賀会



寮生と会館役職員らの記念撮影

7月9日(土)、後楽寮25周年記念祝賀会を行いました。これは本来3月26日に行う予定でしたが、東日本大震災の為延期していたものです。

これまで後楽寮は4千名あまりの中国からの留学生、訪問学者を受け入れ、その多くは帰国して中国の発展に寄与し、また日本に残った留学生も日本の各大学や企業に勤め、日中友好の懸け橋として活躍しています。

この日は中国大使館や華僑総会、そして日頃寮生がお世話になっている友好団体の方たちも大勢来ていただき、200名近くの盛会でした。

来賓紹介と江田会長の挨拶の後、第1部の記念講演を行い、村上理事長より後楽寮建設時にまつわるエピソードを中心にお話しいただき、続いて中国大使館教育処より「中国側から見た後楽寮」というテーマでお話ししていただきました。



合唱団によるパフォーマンス

第2部では後楽寮寮生委員会より画像などを織り交ぜながらの現在の後楽寮を紹介し、後楽寮芸術団による歌や踊りなどの公演を行いました。

第3部は懇親会。今回は日本に残り活躍している元寮生を中心に後楽寮同窓会というような形で行いました。元寮生の中には25年以上前の善隣学生会館時代の方や、つい最近退寮した方など年代や歳が様々でした。また、かつて後楽寮で勤務していた職員や中国人調理師も来ていただき、思わぬ再会が所々にみられました。

今回は元留学生を中心に「日中友好会館中国後楽会」として同窓会組織を設立しましたので引き続き会館、そして現寮生との交流などを行っていききたいと思います。

(留学生事業部)

### ◆大使館より後楽寮寮生へ非常食が届く



届いた非常食を運び込む寮生

災害時の非常食用として7月1日に中国大使館よりクラッカー160箱、ソーセージ160箱が届きました。寮生委員会ははじめボランティアの寮生で搬入と運搬をし、後日寮生へ配布しました。

中国大使館にはこの場をお借りして日頃のご指導ご鞭撻及び今回の非常食配布に御礼申し上げます。

(留学生事業部)

## ◆「王宏喜・潘宝珠-中国画の世界展」 好評のうちに閉幕



(左から) 張愛平公使参事官、王宏喜・潘宝珠夫妻  
村上理事長によるテープカット

今年度の主催催事第 1 弾として、6 月 6 日から 6 月 26 日にかけて「王宏喜・潘宝珠 - 中国画の世界展」が行われました。本展覧会では、人物画を中心として、古典および現代を題材とした中国画 42 点を展示しました。

中国画にも様々な分野がありますが、今回の展示作品は、水墨画を基本として、墨以外の色で彩色するなど、他の要素や技法も採り入れて描かれており、特色ある作風が多くの人を魅了していました。また、縦 1m45cm×幅 3m68cm の大型作品が 3 点紹介され、その迫力と、細やかな表現に圧倒されたとの声が多数寄せられました。内容は、三国志や中国四大美人など、日本でもよく知られている歴史人物を描いたものが多く、中国の歴史文化に興味を持つ方にも楽しんでいただけたようです。また、古典を題材とした絵の他にも、上海万博の労働者や現代の少女を描いた作品もあり、それぞれの人物が持つ雰囲気と豊かな表情が、会場いっばいに温かな雰囲気となって広がっていました。

初日の 6 月 6 日には開幕式が行われたほか、制作実演と東日本大震災支援チャリティも実施されました。開幕式には、たくさんの関係者や美術愛好者らが参加し、にぎやかな空気に包まれていました。制作実演では、王・潘夫妻が 1 枚の絵を一気に描き上げ、

会場からは驚きと感動の声が上がっていました。実演が披露された後、古代の人物を描いた色紙をチャリティとして頒布し、集まった寄付金を全額寄付する事となりました。色紙はどれも美しいものばかりで、あっという間に無くなりました。

3 週間の間、多くの方にご来場いただき、本展は盛況のうちに無事、終了することができました。ご協力いただいた関係各位と、ご来場くださった皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

(文化事業部)

## ◆6 月談話会



講師の徐桐さん(右)と通訳の由志慎さん

6 月 23 日、寮生の徐桐さんを講師、由志慎さんを通訳に迎え、「中国の世界文化遺産の保護と観光」と題した談話会を開催しました。徐桐さんは、元後楽寮寮生委員長で、清華大学で世界文化遺産保護を勉強し、現在東京大学で都市工学を専攻されています。

中国には 40 箇所の世界遺産があり、そのうち万里の長城や西安の兵馬俑などに代表される文化遺産は、29 箇所あります。徐さんは、世界文化遺産の基礎知識をはじめ、雲南省麗江古城、山西省五台山などの見どころ、歴史などをたっぷりと話され、参加者の皆さんも興味深く聞き入っていました。

(後楽会事務局)

## ◆平成 23 年度日本高校生訪中代表团 第 1 陣が訪中

遼寧省(大連)・黒龍江省(ハルビン)  
・北京で交流



平成 23 年度日本高校生訪中代表团第 1 陣(団長=須原洋次・京都府立西乙訓高等学校校長、副団長=大橋義久・和歌山県立橋本高等学校教頭、一行計 101 名)が、2011 年 6 月 15 日から 6 月 21 日の日程で訪中した。中国日本友好協会が受け入れを担当し、日本側派遣実施を当財団が担当した。当財団の王昆中国代表常任理事が団顧問として活動に参加した。

本代表团には、京都府と和歌山県の高校生が参加し、遼寧省、黒龍江省、北京市を訪問し、学校交流やホームステイのほか、万里の長城、故宮博物院等の歴史遺跡の見学を行った。参加した高校生は、交流を通じて現地の高校生らと親睦を深めるとともに、悠久の歴史と経済発展著しい中国の現状について理解を深めた。

本代表团は 6 月 15 日に大連より入国。16 日は大連市内の老虎灘等を見学した後、大連市第十六中学を訪問した。歓迎セレモニーに続いて参加した英語の授業では、活発な雰囲気の中、日中高校生がグループで発表し、最後に「幸せなら手をたたこう」を英語で大合唱した。授業の後はグラウンド

に移動し、男女、日中が入り混じったチーム編成でバスケット交流試合を行った。コート周りでも記念品や連絡先を交換して積極的に交流する姿が見られた。

同日夜には、宿泊ホテルで開催された歓迎宴に参加。許金平中国日本友好協会副会長から歓迎の言葉が述べられ、続いて須原団長は「日本は、長い歴史のなかで中国から多くの文化を吸収してきました。その中国と、今日さらなる交流を深めることは、高校生にとって大きな喜びです」と挨拶した。

17 日は黒龍江省ハルビン市へ移動し、ハルビン市第三中学を訪問してホームステイを行った。緊張した面持ちでホスト生徒と対面した日本高校生は、大きな荷物をホスト生徒と運びながら笑顔でホームステイ先へと向かった。18 日朝に生徒は学校に集合し、ホストファミリーとお別れをした。短い交流ながら、涙を流して別れを惜しむ姿や楽しそうに談笑する姿があちこちでみられ、各々にとって印象深い体験となったことがうかがえた。その後、ホームステイの余韻に浸りつつ、太陽島公園、東北虎森林園等を見学した。

19 日は北京へ移動し、34 度の猛暑の中、天安門広場、故宮博物院を見学した。夜は、北京ダックに舌鼓を打ったあと雑技を鑑賞し、目を見張る技の数々に驚きの声が上がった。20 日は万里の長城を見学し、夜は歓送会に出席した。陳永昌中国日本友好協会副会長より、東日本大震災の被災地福島県の小学生と温家宝総理との交流エピソードが紹介され、日中関係の未来に対する若い世代への期待が示された。京都、和歌山両府県の生徒代表からは「言葉が通じず苦労しました。でも楽しく充実した時間を過ごすことができました」、「今回の経験から国際的な視野を広げることができたと思います」との感想が発表された。最後は、高校生全員で「世界に一つだけの花」を大合唱し歓送会は幕を閉じた。



6月21日、全日程を終了し、一行は無事に帰国の途に就いた。訪中に参加した高校生からは、「バスケットをした時、みんなとの仲がぐっと近くなって、言葉ができなくても気持ちは同じだと思った」、「中国で話した高校生はみな大きな夢を持っていた。日本人はもっと頑張らないといけない」、「訪中団に参加して中国の素晴らしさはもちろん、日本の恵まれた環境にも気づくことができた」といった感想が聞かれ、訪中を通じてそれぞれが大きく成長したことがうかがえた。

最後に、今回の訪中団実施にあたり、ご指導ご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げたい。

(総合交流部)

#### ◆日本青年映像関係者代表団が訪中 日中映像交流事業開幕行事に参加

日本青年映像関係者代表団（一行43名）が、2011年6月7日から6月13日の日程で訪中した。本事業は外務省主催事業で、当財団が実施を担当した。本代表団は、映画、映像、漫画等に関係する大学生・大学院生・専門学校生等により構成され、北京市および上海市を訪問し、日中映像交流事業開幕行事に参加したほか、北京電影学院や上海市内の大学生との交流をはじめ、中国の映像分野に関連する視察を行った。

日中映像交流事業は、昨年5月の日中首脳会談で今年度の実施が合意されたもので、6月8日の北京での開幕イベントを皮切りに、北京・上海で「日本映画、テレビ週間」、「日本アニメ・フェスティバル」を実施するほか、2011年中に日中両国において数々の関連事業が予定されている。

本事業に参加した学生は、中国における映画・アニメの発展状況に対する理解を深めるとともに、交流を通じて現地の大学生らと親睦を深めた。

本代表団は6月7日に北京より入国、当日は中央電視台を訪問し、スタジオや中央制御室等を参観した。8日は、中国デジタル制作基地（国家中影数字制作基地）、天安門広場を参観した後、中国国家博物館で開催された日中映像交流事業「日本映画、テレビ週間」、「日本アニメ・フェスティバル」開幕式典および交流会に出席した。

開幕式典には、麻生太郎総理特使、温家宝総理、蔡武文化部長等が出席した。麻生総理特使、蔡文化部長の挨拶の後、麻生総理特使と温総理によるマスコット点灯式が行われた。開幕式典に続いて行われた交流会には、日本から参加した俳優陣の紹介、北京日本人学校児童による歌の披露等が行われ、賑やかな会となった。

6月9日は中国唯一の映画専門の高等教育機関である北京電影学院を訪問した。キャンパス参観や同学院の大学生と昼食をと

りながらの自由交流の後、午後には、山田洋次監督の「母べえ」上映会・トークショーに参加した。夕食には山田洋次監督も参加いただき、学生団員にとっては監督と直に話ができる貴重な機会となった。



昼食を食べながら映画を学ぶ学生と交流  
(北京電影学院)

6月10日には北京から上海へ移動し、上海外国語大学をはじめとする上海市内の5大学の日本語学科学生と交流を行った。中国の学生の堪能な日本語に驚くとともに日本のアニメの話や日常生活の話に花が咲いた。上海では、12日に行われた「2011 上海・日本映画週間」オープニング交流会への参加のほか、中国でも歴史が古く数多くの人気のあるアニメーション作品を手がけたアニメ制作所である上海美術電影製作所や1930年代の上海の街並みのセットがある上海影視樂園等を訪問した。団員は、特に切り絵、水墨画、人形を用いる等中国の特色ある技法を用いたアニメーションに感銘を受けた様子であった。



撮影中のエキストラと一緒に(上海影視樂園)

6月13日、全日程を終了し、一行は無事に帰国の途に就いた。訪中に参加した学生からは、「映画上映の際の観客の熱意が最も印象的。全体で笑いあったり拍手をしたりするのが素晴らしいと思った」、「中国人は、自分の意思を持ち、しっかりと発言できる人が多く、尊敬する部分が多くあった」といった感想が聞かれ、訪中を通して大きな刺激を受けたことがうかがえた。

最後に、今回の訪中にあたり、ご指導ご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(総合交流部)

## 会館行事と人の動き 6/1～30

### ●会館行事

- 6/ 2 ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 6/ 6 ▶ 「王宏喜・潘宝珠展—中国画の世界展」開幕式、代表団歓迎宴(於：涵徳亭)
- 6/ 7 ▶ 日本青年映像関係者代表団(～13日)
  - ▶ 第4回評議員選定委員会□
- 6/15 ▶ 平成23年度日本高校生訪中代表団第1陣(～21日)
- 6/16 ▶ 後楽寮新入寮生歓迎会
  - ▶ 後楽会気功・中国画教室
- 6/23 ▶ 後楽会談話会「中国の世界文化遺産の保護と観光」
- 6/27 ▶ 第76回理事会□
- 6/28 ▶ 第60回評議員会□
  - ▶ 平成23年度中国国家行政学院公務員訪日研修団(～7月5日)
- 6/29 ▶ 同代表団歓迎レセプション
  - ▶ 平成23年度中国青年代表団第1陣(～7月6日)
- 6/30 ▶ 同代表団歓迎レセプション

### ●来館・訪問・面会

- 6/ 7 ▶ 中国大使館呂克儉公使他会食(谷野副会長、武田常務)
- 6/13 ▶ 渡辺信行地域調整官来館(村上理事長他)
- 6/14 ▶ アジア環境技術推進機構川上彰夫専務理事来館(村上理事長他)
- 6/15 ▶ 江橋崇先生来館(村上理事長他)
- 6/16 ▶ 竹下亘理事訪問(村上理事長他)
- 6/23 ▶ 渡辺信行ボストン主席領事、遠山茂地域調整官来館(谷野副会長、村上理事長他)
- 6/29 ▶ 葛西循環器脳神経外科病院吉田理事長他来館(村上理事長他)

### ●行事参加、その他の活動

- 6/24 ▶ 日中文化交流協会創立55周年記念講演会「おい進む今日」(村上理事長他)
- 6/30 ▶ 日中友好7団体主催孔鉉佑公司歓送会(村上理事長、王中国代表理事)
  - ▶ 小石川後楽園庭園保存会年次総会(入江常勤参与 於：涵徳亭)